

# 「日本の政治の新しい時代」を前に動かす歴史的な大会に 日本共産党第27回大会終わる。上野地区委員長も参加

日本共産党の第27回党大会が15日から18日まで静岡県熱海市において開かれました。今大会では、昨年から始まった立憲野党と市民の共闘による「日本の政治の新しい時代」をいかに前に出すかが課題でした。

大会の初日には民進党、自由党、社民党の野党3党と沖繩の風の代表が連帯の挨拶を行いました。それぞれの代表は、「一日も早く体制を整えて、みなさんとともに来たるべき決戦に備えたい」「この舞台に立っていることに歴史的使命を感じている」（民進党安住淳代表代行）

などとのべ、連帯と共闘の強化を強く呼びかけました。そして、大会参加者と一体となって「がんばろう」を三唱しました。これは日本共産党の歴史だけでなく、日本の政治史上でも画期的な出来事となりました。

大会では安倍内閣が強権・暴走政治をすすめるなかで、それと対決し、立憲野党と市民の共闘が大きく前進し始めていることなどが討論などを通じて明らかにされ、日本の前途を切り開く方針が練られました。新しい方針に基づいて、私も上越市議会などで頑張る決意を固めています。

今回の大会には新潟県内から川俣幸雄県委員会書記長、上野公悦上越地区委員長（上越市議）など10数人が参加、川俣書記長は昨年の秋の県知事選などでの教訓について報告し、参加者に注目されました。

大会の中で行われた野党・会派の代表挨拶、志位委員長の報告、結語などの模様はインターネットを通じて全国に伝えられ、上越市内では地区委員会事務所など3か所で視聴会も行われました。

## オスプレイも参加検討

18日の午後、内山米六市議会議長を通じてとんでもないニュースが入ってきました。陸上自衛隊と米海兵隊が3月の下旬から中旬にかけて、関山演習場と相馬原演習場（群馬県）などで共同訓練を行う。しかも沖繩で事故を起こしたばかりのオスプレイも参加の方で調整を進めているというのです。事故原因もはっきり究明されていない中でこのような訓練を行



【ユキツバキ】ツバキ科の常緑低木。幹の高さは1～2m。牧区今清水にあるユキツバキは新潟県内で一番の大きさと言われています。いまはまだつぼみですが、雪が解けてしばらくすると赤い花を咲かせます。

うことは断じて許されません。日本共産党では社民党などと共同して中止を求めたばかりを進めていきます。関山演習場などの日米共同訓練は、2014（平成27年）2月から3月にかけても行われ、今回が11回目ということです。前回の訓練では油漏れ事故を起こし、中郷区住民などから、怒りの声が上がりました。



油漏れの処理作業中の自衛隊（当時）



次々に計画されている「箱物」、3億2千万円もの国宝の購入計画……その一方で、地域に密着した施設をなくそうとする動きがあります。また、高すぎる介護保険料や国保税の負担はもう限界です。原発事故の避難計画も十分ではありません。みなさんの暮らしによりそって市政に臨む日本共産党議員団が、市政の重要課題を報告するとともに、みなさんの声をお聞かせします。ぜひお気軽においでください。お待ちしております。

- 1月26日(木) 18:30～20:30
- 柿崎地区公民館

上越市議会日本共産党議員団  
連絡先 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石) 橋本 正幸 090-1980-9855 (三和区瑞井)  
上野 公悦 090-7250-9407 (頸城区中柳町) 平良木哲也 090-1818-6919 (上中田)  
『暮らし何でも相談室』開いています。お気軽にご相談ください。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1791 2017.1.22**  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら  
橋爪法一 検索



歴史的な第27回日本共産党大会に参加した代議員はあちこちで記念撮影したようです。この写真は上野公悦市議が発信したもので、左から上野市議、金元幸枝衆院福井1区予定候補、猿橋巧福井2区予定候補、西沢博衆院新潟5区予定候補。

# 春よ来い

## 第四三九回

## 冬の晴れ間

天気予報はどうであろうと、ここしばらくは雪は降らないだろう。そういう勝手な思い込みをあざ笑うように、先週の土曜日、どか雪が降りました。

わが家の玄関の屋根には二階の大屋根からの雪がどっさり落ちて、山ができませんでした。玄関の戸を開け、外を見ると、庭に駐車している車は雪にすっぽりと覆われていて、一目で「これでは除雪しないと車は出せない」と感じました。計測した数値ではありませんが、おそらく前夜からの降雪量は五〇センチ前後になったものと思います。

予報では、大雪は三日ほど続くと報道され、テレビ画面に出た予想降雪量は、山間部も平場も初日と同じく、どか雪となるに十分な量でした。一回どんと降ると、その後の降雪予報に関しては急に信じるようになります。私は、それまで準備してこなかったわが家の小型除雪機などを動かすために試運転をするとともに、軽油の手配をしました。

大雪となった土曜日はふだんでも忙しいのに、一段と忙しくなりました。私が発行しているレポートの大量印刷に加えて、除雪という大仕事ができただけです。やることはいくつもあつたので、除雪では車の出し入れができるようにしただけでしたが、それでも二時間ほどかかりました。

車を出せるようにしたものの、この日はそれで安心してどこにも行かれるという状況ではありませんでした。道路環境が極端に悪化していたのです。隣の柿崎区へ行く際には、代石や百木付近で地吹雪に遭い、立ち止まることもしばしばでした。吹きだまりもあちこちに出ていました。

この日、やることにしていた仕事のひとつは「しんぶん赤旗」日曜版の配達でした。いつもなら午前いっぱいくらいで終わるのですが、この日は大雪と荒れた天気のために午後三時過ぎまでかかりました。

一回、大雪で苦しめられた日の翌日から、朝に考えることがいつもと違ってきます。言うまでもなく、雪のことが最大関心事となるのです。目覚めて、一番最初の行動は顔を洗うことではなく、二階の窓から降雪状況を確認することになります。

しかし、今回の大雪の翌日はそんなことをしないでよい天気となりました。大雪の日はくたびれたので、ゆっくりと休んだのですが、翌日になって目覚めたときには、寝室の障子戸が明るくなっています。それだけで、うれしくなりましたね。

廊下に出て、窓から外を眺めると、東南方向は明るく、なんとも言えない美しい景色になっていました。私は大急ぎで支度をして車を出し、米山や尾神岳が見える場所へ向かいました。その場所は、私の地元にある「かどや商店」の近くから大出口方面に向かう県道の途中にあります。

下中条が見えるカーブ付近まで行った時、ちょうど尾神岳の東方から朝日が昇り始めたところでした。すぐ車を止めて、カメラを取り出しました。白い雪原、水路、道路、里山などが一瞬にして薄い金色に変わりました。それはそれは見事な光景でした。近くにあった雪の吹きだまりには風が吹いたことよって作られた線状の模様がついていましたが、それも薄い金色に染まりました。この光景はブログなどで全国に発信しました。

この日は数時間後には再びどんよりした冬空になり、雪を降らせました。ですから、この日の朝はまさに「冬の晴れ間」と言つてよい時間帯となりました。

新潟県内に住んだことのある友人は、あるところで、「たまの晴れ間は心も晴れ晴れしていた。ましてや、豪風雪の直後は生き返ったみたいだった」と書いていました。私も同感です。出来れば、その晴れ間が長く続いてほしい。

### ひすいラインで調査活動

先日、平良木市議とともに「えちごトキめき鉄道」の日本海ひすいラインに乗り、糸魚川市まで行ってきました。自動車で行けなかったのは、ディーゼル車に乗って確かめたいことがいくつかあったからです。

そのひとつはトイレ設置で車両がどうなっているかです。私たちが乗ったディーゼル車は1両のみ、そこにトイレを設置するとなると狭くなるのではと心配していたのですが、そう心配しないでもいいことがわかりました。乗車時間は40分ほどです。トイレも利用してみました。余裕があつて快適でした。



かつたですね。

北越急行のほくほく線の電車にもトイレを設置してほしいという要望にどうこたえるかを考える上で参考になりました。

### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月11日(水)	1月18日(水)
上越南消防署	0.053	0.030
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.067	0.050
東頸消防署	0.043	0.043
高士分遣所	0.037	0.050
名立分遣所	0.057	0.047

### ブログなどの経験が小冊子になりました

日本共産党が発行している月刊誌の「議会と自治体」に連載されている「私のブログ、ツイッター」の一部がまとめられ、パンフレットになって私のところにも届きました。非売品。

24人の議員の取組が載っていますが、フェイスブックやブログなどの経験について私が書いたもの

も載っています。自分の書いたものが入った冊子ができるというのはうれしいですね。

